

園長先生におこられたこと



時崎 久夫

四十年 度 卒園生

卒園してからもう20年もたったのですね。

でも僕は今でもいくつかの出来事やその時の情景を、まるで古い映画や写真のようにはっきりと覚えています。紙粘土で作った花びん、「ちびくろさんぼ」の劇のおめん、窓から見た大きな木と青い空、オルガンに合わせて歌った卒園の歌。もう、いくらだって思い出すことができます。

でも 若葉幼稚園の思い出で一番忘れられないのは、園長先生（編集部注・故三宅さだ園長）におこられたことです。その頃の僕は、どうしようもない泣き虫でした。その時はどうして泣いていたのかわかりませんが、わたりろうかのげた箱のところで、しゃがみこんでピーピーやっていたのです。そこに、ちやうど通りかかった園長先生は、きつと前から見かねていらつしやたのでしよう。「そんな泣き虫は、わかにはいりません。うちにお帰りなさい。」と強い口調で言われました。おそらく、家の人以外からき

つくおこられたのは、それが最初だったのだと思います。

僕はまたもう大泣きで家に歩いて帰り、どうしたことかと玄関で出迎えた母にわけを話しては、またひと泣きといった具合でした。

そんなふうには、いわば園長先生から退学を命じられた僕が、いつからどうやってまた通いはじめたのかはわかりません。でもあの時の園長先生の厳しく優しい言葉と、とても大きく見えたお姿は今でもはっきりと覚えています。

僕は今、札幌に住んで大学院で英語の勉強をしています。が、たまに四街道に帰ると幼稚園のまわりを散歩し、なつかしい想いにひたることがあります。

「わかば」がなくなることはさびしいことですが、たくさんさんの思い出をくれた「わかば」に、今は感謝しています。園長先生、ほんとうにありがとうございます。

59. 11. 30.

※ 拙文を送らせていただきました。亡くなられた園長先生への御礼のつもりです。これを書きながら、またわかばの泣き虫に戻ってしまいました。先生にもう一度お会いしたかった。「めばえ」を楽しみにしております。